

## 「全鍍連」 2018年 5月号 理事長のよこがお

京都府鍍金工業組合 理事長 小林 明洋(株)小林工業所 代表取締役社長)  
「明治維新 150 年」



京都府鍍金工業組合で理事長を拝命しております株式会社小林工業所の小林明洋でございます。ようやく今年の 5 月で就任してから丸 3 年が経ちましたが、日頃は皆様に大変お世話になり誠に有難うございます。

さて、今年には明治元年から数えて 150 年という節目の年に当たります。そのため、京都では明治維新 150 周年記念に関連した企画や催しが準備されています。150 年前、かつて千年に渡って都として栄えた京都は、遷都により東京に全てが移行されていくという大きな危機に直面しました。しかし、この危機を逆にチャンスと捉えて、琵琶湖疎水の建設、日本初の路面電車の敷設、工業高校の開設等に取り組み、近代産業の礎が築かれました。我々の業界に於いても、この時期に海外から最先端の電気めっき技術が導入されると、電気めっき加工が行われ始めました。平安京の昔より信仰の中心地であったことから、仏像や仏具等に金めっきや銀めっきが古くから用いられていましたが、新たな技術革新によって大きな変革をもたらしました。こうした先人の果敢な挑戦によって今日の業界があるのだと思うと、我々の時代には果たして何を取り組み、次の時代には何を残せるのだろうかと考えさせられます。

話が少し逸れますが、弊社の所在地である京都市中京区壬生は、幕末から明治維新の時代に生きた新選組に縁深い場所として有名です。律宗大本山の壬生寺や新選組屯所跡の八木邸等の名所があることから観光客が訪れますが、昨今の歴史ブームやインバウンド需要等により以前より増して国内外の人々を見かけるようになりました。普段はなかなか足を踏み入れることはありませんが、先日久しぶりに壬生寺を訪れ



てみました。静かな境内を散策し、往時に思いを馳せる良い機会となりました。

こうした偉大な先人やその時代に翻弄された人々が築いた功績や歴史があって、今という時代が存在すると考えると非常に感慨深いものがあります。当組合においても、先輩の尽力により残された数々の財産を有効に活用して、活発な事業を展開していき、組合経営の発展に寄与していければと思います。

